

「主の恵みはとこしえまで」

～喜び、感謝をささげ続ける！～

「私は、あなたがたのことを思う度に、神に感謝の祈りをささげ、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びにあふれ、あなたがたが、福音を聞いたあの最初の日から今日(こんにち)に至るまで、ずっと福音宣教の働きに協力してくれたことを感謝している。」ピリピ人への手紙1章3-5節 [現代訳]

本日からピリピ書に入ります。この手紙は、「喜びの書簡」と呼ばれて、パウロの喜びの信仰が沢山詰まっています。しかし、この手紙を書いた時にもパウロは牢獄の中に入れられていました。しかし、何度も何度も繰り返すように、ピリピの信徒に対して、「喜んでいなさい！」と勧め励ましました。ローマ帝国による迫害の波が本格的にクリスチャンたちに迫っている中で、恐れ、おびえ、悲しみと苦しみの真中にある中で、パウロは「喜びなさい！」また、「感謝しなさい！」と勧めました。なぜなら、それこそが、最大のクリスチャンの武器であることを知っていたからです。喜べない状況だからこそ、敢えて喜ぼうとする。感謝できない状況だからこそ、敢えて感謝をささげていく。それは現代に生きるクリスチャンである私たちに対しても同様ではないでしょうか？

クリスチャンの喜びとこの世の人々の喜びとの決定的な違いは、その喜びの原因です。この世の人々の喜びの理由は、一時的なものです。ですから、その喜びは持続できません。しかし、クリスチャンの喜びは永遠の世界へと続く喜びです。その喜びは永遠に尽きることのない希望によるものです。たとえ私たちの側でその希望を見失ってしまったとしても、その絶対的な希望自体が私たち自身を握り、抱きかかえて主の恵みへと持ち運びます。その希望こそがイエス様であり、そのイエス様ご自身が私たちの喜びの源なのです。自分の力で頑張って人生を生きている間は、その希望は見えてきませんが、自らを主に委ねて歩むときに、初めて主が力を表わしてくださるのです。

先日の金曜日にゴスペルシンガーである横山大輔さんの賛美をお聞きました。その中に「主の恵みはとこしえまで」という賛美がありました。それは、横山さんがしばらくうつ病のようになってしまって、家にこもり切ってしまったときに与えられた主からのメッセージであったということです。インターネットで片っ端から聖書のメッセージを聞いているうちに、一つの御言葉に出会いました。それが詩篇118篇でした。「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。さあ。イスラエルよ、言え。『主の恵みはとこしえまで。』と。さあ。アロンの家よ、言え。『主の恵みはとこしえまで。』と。さあ。主を恐れる者たちよ、言え。『主の恵みはとこしえまで。』と。(1～4節)」その言葉の通りに、「主の恵みはとこしえまで」と告白し始めました。そして、彼の心が変えられていきました。